1．教育学部附属山口中学校武道場新営工事に伴う予備発掘調査

調査地区　白石構内

調査面積　約235.8㎡（A調査区68.2㎡、B調査区86.8㎡、C調査区80.8㎡）

調査期間　平成25年6月3～18日

調査担当　田畑直彦・石丸恵利子

調査結果

（1）調査の経緯（図45、写真119・120）

平成24年度からの中学校における武道の必修化に伴い、教育学部附属山口中学校で武道場新営工事が計画された。工事計画は校庭の南部に平面規模約16m×34mの範囲に建物を新営するもので、トイレ設置箇所で現地表下140㎝、その他の箇所で100～110㎝の掘削が計画された。上記の工事計画について、平成21年度第13回埋蔵文化財資料館専門委員会（3月23日開催）で審議した結果、工事予定地周辺では調査実績が少なく、地下の状況が不明確であることから、工事に先立って予備発掘調査を実施することになった。この段階で工事は未定であったが、平成25年度の工事決定を受けて、予備発掘調査を実施した。

調査にあたっては、予定地内にA～Cの調査区を設定した。B・C調査区は連続している。

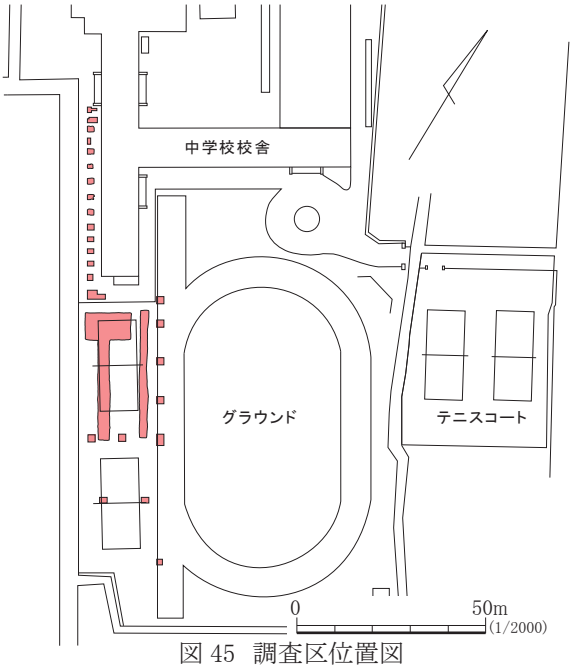


図 45　調査区位置図

写真 119　A調査区調査前全景（南から）

写真 120　B・C調査区調査前全景（南から）

（2）基本層序（図47・48、写真122～129）

基本層序は、下記の通りである。

第1層：表土（層厚約5～7㎝）
第2層：造成土（層厚約70～100㎝）
第3層：旧水田耕土（層厚約6～16㎝）
第4層：旧水田床土（層厚約2～8㎝）
第5層：遺物包含層（層厚約65㎝以上）
第6層：谷埋土（層厚40㎝以上）

学校敷地となる以前は水田（第3・4層）であり、その直下に第5、6層が続けて堆積している。両層は中世の遺物を含む。第6層は砂・礫層主体であり、水流による堆積層である。A調査区南部とB・C調査区全面で確認され、南側に落ち込むことから、埋没谷の堆積土と考えられる。第5層も谷埋土の可能性が高いが、今回の調査では谷の肩部を確認できず、分布範囲等に不明な点があるため、本報告では区別した。

(3)層序・遺構(図46・写真121～129)

a. A調査区

現地表の標高は約28.3mである。調査区北部では、現地表下100～120㎝まで掘削を行ったが、底面は第2層であった。調査区南部では、現地表下約85㎝、標高約27.5mまでが第1・2層で、以下約27.5～27.3mで第3層、約27.3～27.2mで第4層、約27.2～27.05mで第5層を確認した。第5層の検出標高は約27.2mで、層厚は15㎝以上である。造成土から弥生土器・土師器片が出土した。

b. B調査区

現地表の標高は28.2～28.3mである。第1・2層は層厚がおよそ100㎝であったため、2段掘りとし、一部を除き、下段の断面図で報告を行う。現地下約90～100㎝、標高約27.4～27.2mまでが第1・2層である。以下標高約27.4～27.2mで第3層、約27.2～27.0mで第4層、約27.2～26.7mで第5層、約26.7～26.6mで第6層を検出した。第5層の層厚は28～47㎝で、第5－3・6層からは、須恵器、瓦質土器片が少量出土した。また上面で旧水田暗渠1条を検出した。第6層は層厚10㎝以上で、湧水が顕著であった。

c. C調査区

現地表の標高は28.2～28.3mである。第1～4層の層序はB調査区と同様である。B調査区同様、2段掘りとし、下段の断面図で報告を行う。調査区南部では第4－4層上面で旧耕土に伴う野壺(肥だめ)を1基検出した。また、調査区北西部で一部を深く掘り下げたところ、第5－7層を標高約26.8mで検出し、層厚は最大で22㎝であった。第5－2・3層からは、土師器、瓦質土器片が出土した。標高約26.6～26.4mでは第6層を検出した。同層は湧水が顕著で、木製椀片1点と土器片が少量出土した。調査区南西部も一部を深く掘り下げたところ、標高約27.1～26.9mで第5－2・5層とb層を検出した。b層は第5－5層を切っていることから、河川堆積土と考えられる。第6層は層厚40㎝以上である。湧水が顕著で、遺物は出土しなかった。安全管理上、これ以上の掘削は行っていない。

(4)遺物(図49・50、写真130・131)

【土器】

B調査区第5－3・6－1層出土土器

1は土師器皿口縁部である。2は土師器皿底部で外底面に糸切痕がある。3は瓦質土器甕の口縁部か。外面はヨコミガキが顕著で、接合面で剥離する。

B調査区第5－3層出土土器

4は土師器皿である。摩滅するが、外底面に糸切痕がある。5は須恵器甕の胴部である。外面に平行タタキ、内面に当て具痕がある。6は土師器皿。7は瓦質土器擂鉢の口縁部、8は同胴部で内面に卸目6条を施す。9は瓦質土器甕の胴部で、外面に格子目タタキ、内面にヨコハケを施す。

C調査区第5－2・5－3層出土土器

10は瓦質土器擂鉢の口縁部で、内面の大半が剥離している。

C調査区下段・上段清掃時出土土器

11～13は下段清掃時出土土器。多くは第5－2・3層からの出土と考えられる。11は弥生土器甕の口縁部。後期～終末期か。口縁部に2段の刺突文を施す。12は須恵器高台付坏。13は瓦質土器擂鉢口縁部。14～16は上段清掃時出土土器。14は弥生時代終末～古墳時代初頭の山陰系甕の口縁部。15は14と同一個体の胴部で外面に波状文、内面にケズリを施す。16は土師器皿の口縁部～底部。

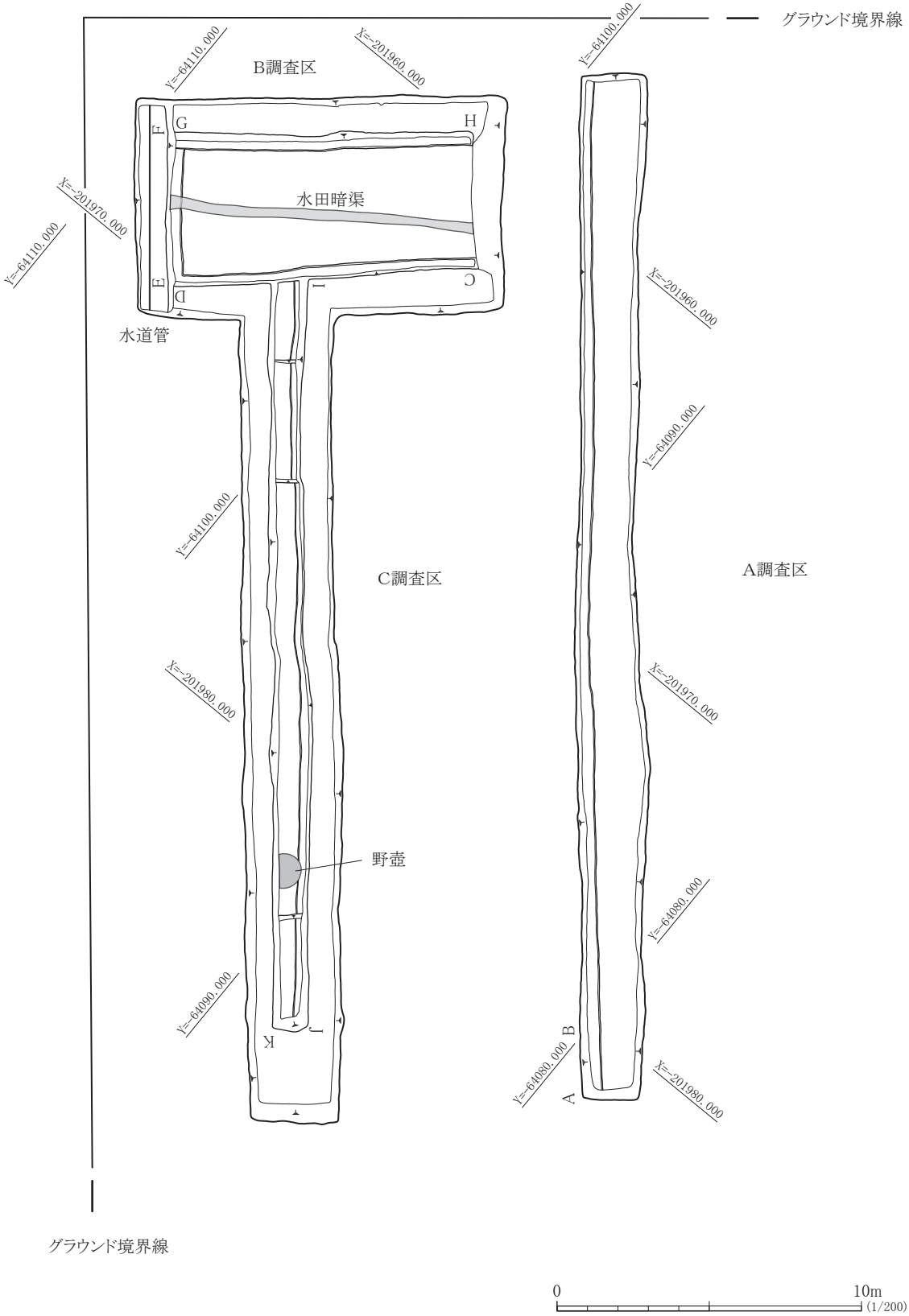
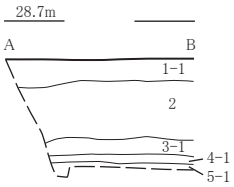
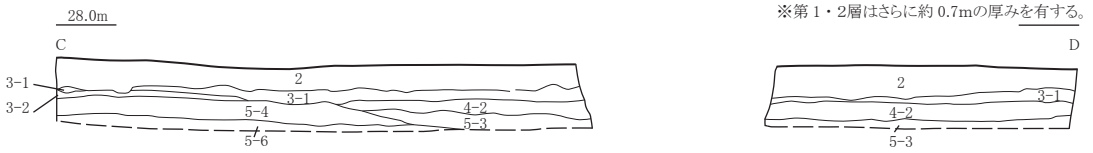

グラウンド境界線
B調査区
Y=-64110.000
X=-201960.000
Y=-64100.000
G
H
E
F
水田暗渠
X=-201970.000
Y=-64110.000
D
C
I
水道管
X=-201960.000
Y=-64090.000
Y=-64100.000
C調査区
A調査区
X=-201980.000
X=-201970.000
野壺
Y=-64080.000
Y=-64090.000
K
J
Y=-64080.000
B
A
X=-201980.000
グラウンド境界線
0
10m
(1/200)

図 46　調査区平面図

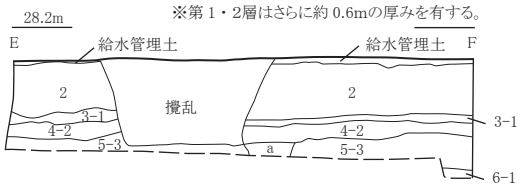
A調査区南西壁



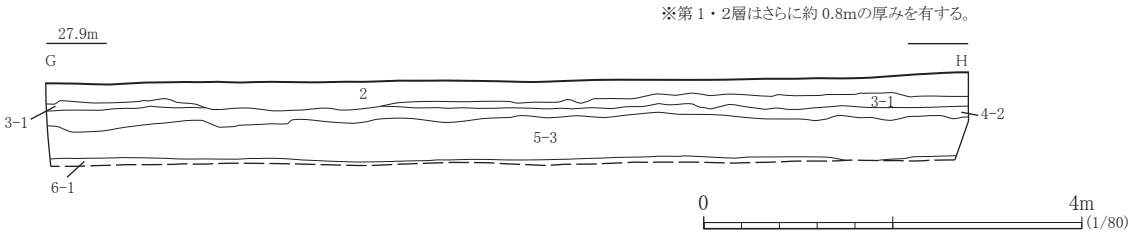
B調査区南東壁



B調査区南西壁



B調査区北西壁

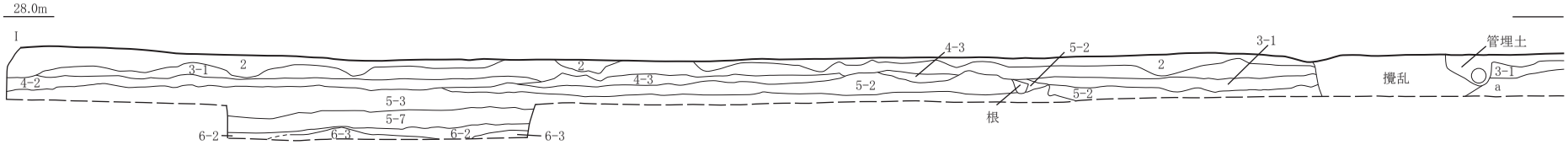


1-1　表土　マサ土・コークス・浅黄色（2.5Y7/4）粗砂
2　造成土　オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト、黄褐色（2.5Y5/6）シルト、黒褐色（2.5Y3/1）シルト、オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルトをブロック状に含む。0.5～5㎝大礫含む
3-1　旧耕土　オリーブ灰色（10Y4/2）シルト　0.5～3㎝大礫含む
3-2　旧耕土　緑灰色（5G5/1）シルト
4-1　旧床土　黄灰色（2.5Y5/1）シルト　0.5～3㎝大礫含む
4-2　旧床土　灰オリーブ色（5Y5/2）シルト　0.5～3㎝大礫少量含む
5-1　遺物包含層　オリーブ灰色（10Y6/2）シルト、明黄褐色（10YR6/6）礫・粗砂を含む
5-3　遺物包含層　灰色（7.5Y5/1・6/1）シルト　0.5～3㎝大礫少量含む
5-4　遺物包含層　灰色（7.5Y4/1）シルト　0.5～3㎝大礫少量含む
5-6　遺物包含層　暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）シルト　0.5～3㎝大礫少量含む
6-1　谷埋土　灰オリーブ色（7.5Y5/2）粗砂
a　暗渠埋土　5-2に4-2をブロック状に含む

図47　調査区土層断面図1

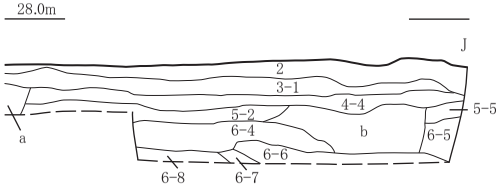
C調査区北東壁

※第１・2層はさらに約 0.6 ～ 0.8mの厚みを有する。

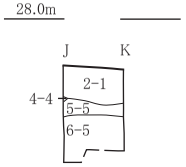


C調査区南東壁

※第１・2層はさらに約 0.7 ～ 0.8mの厚みを有する。



※第１・2層はさらに約 0.7mの厚みを有する。



2　造成土　オリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト　黄褐色（2.5Y5/6）シルト、黒褐色（2.5Y3/1）シルト、オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルトをブロック状に含む。～５cm大礫含む
3-1　旧耕土　オリーブ灰色（10Y4/2）シルト　～３cm大礫含む
4-2　旧床土　灰オリーブ色（5Y5/2）シルト　～３cm大礫少量含む
4-3　旧床土　灰オリーブ色（7.5Y6/2）シルト　～３cm大礫少量含む
4-4　旧床土　灰オリーブ色（5Y4/2）シルト　～３cm大礫少量含む
5-2　遺物包含層　灰色（7.5Y5/1）シルト　～３cm大礫少量含む
5-3　遺物包含層　灰色（7.5Y6/1）シルト　～３cm大礫少量含む
5-5　遺物包含層　5－2と同じ
5-7　遺物包含層　灰色（7.5Y6/1）シルト　5-3より礫を多く含む
6-2　谷埋土　灰オリーブ色（7.5Y5/2）細砂　青灰色（5B4/1）シルト、
6-3　谷埋土　オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫　～４cm大礫主体
黄灰色（2.5Y4/1）シルトをラミナ状に含む 部分的に6-2を含む
6-4　谷埋土　灰色（7.5Y5/1）細砂　粗砂を多く含む
6-5　谷埋土　6-4と同じ
6-6　谷埋土　灰色（10Y4/1）粗砂
6-7　谷埋土　明オリーブ灰色（2.5GY7/1）細砂　0.5～１cm大礫を少量含む
6-8　谷埋土　灰色（5Y4/1）シルト　～３cm大礫少量含む
a 野壺埋土　灰色（7.5Y4/1）シルトに灰オリーブ色（7.5Y5/2）細砂、３～５cm大礫をブロック状に含む
b 河川堆積土　灰オリーブ色（7.5Y5/2）粗砂　～15cm大礫含む

図 48　調査区土層断面図2

写真121　A～C調査区全景（北西から）

写真122　A調査区北部南西壁土層断面（北東から）

写真123　A調査区南部南西壁土層断面（東から）

写真124　B調査区南部・C調査区全景（西から）

写真125　B調査区南西壁土層断面（東から）

写真126　B調査区北西壁土層断面(南から)

写真127　C調査区北部北東壁土層断面(南から)

写真128　C調査区南部北東壁土層断面(南から)

写真129　C調査区野壺(北西から)

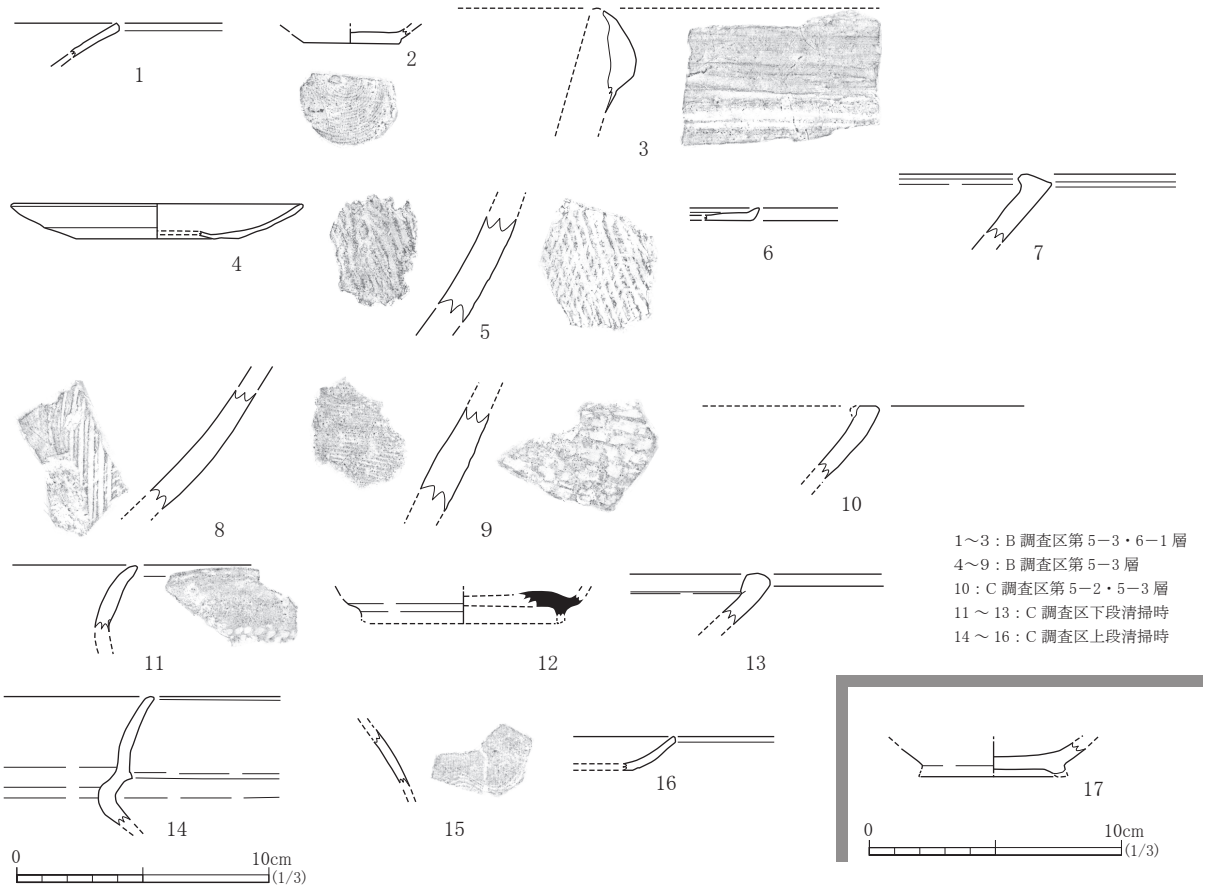
【木製品】

17はC調査区北西部の第6－2層から出土した木製椀で高台を欠損する。内外面に漆を塗布する。乾燥による漆の剥離を避けるため、最低限の実測にとどめた。

(5)小結

今回調査区の北側に位置する、教育学部附属山口中学校校舎等改修その他工事に伴う予備発掘調査区[註1]では、標高約27.8mで弥生～古墳時代の遺構が検出されている。一方、調査区南端部に隣接する、汚水排水管布設工事に伴う試掘調査第4トレンチ[註2]では、標高約26.9mで暗緑灰色粘土、同層下位では暗オリーブ灰色細砂、暗灰色粗砂が確認されている。また、教育学部附属山口中学校新営植物移植工事に伴う立会調査区[註3]では、現地表下約130cmの地点で旧耕土とみられる①暗灰色弱粘質土(層厚10cm)、その下位に旧床土とみられる②黄灰色弱粘質土(層厚10cm)、遺物包含層とみられる③暗灰褐色弱粘質土(層厚10cm以上)が検出され、③層は昭和61年度に検出された暗緑灰色粘土と同一層で、埋没河川(谷)の埋土である可能性が指摘されている。

今回の調査の結果、A調査区北西部では、現地表下約90cm、標高約27.4mにおいても造成土しか検出されなかった。また、A調査区南東部・B・C調査区では遺物包含層、B・C調査区では流水堆積による砂・砂礫層が確認された。C調査区北西部では現地表下約1.8mまで掘削を行ったが、谷埋土が続いており地山を検出することができなかった。以上から、旧地形は南側に落ち込んでおり、中学校校舎付近から南側には埋没谷が存在する可能性が高い。遺物包含層も谷埋土ととらえれば、同層出土遺物は中世(15～16世紀頃)が主体であることから、この頃までに埋没したと考えられる。



1～3：B 調査区第 5－3・6－1 層
4～9：B 調査区第 5－3 層
10：C 調査区第 5－2・5－3 層
11 ～ 13：C 調査区下段清掃時
14 ～ 16：C 調査区上段清掃時

図 47　出土遺物実測図（土器）

図 48　出土遺物実測図（木製品）

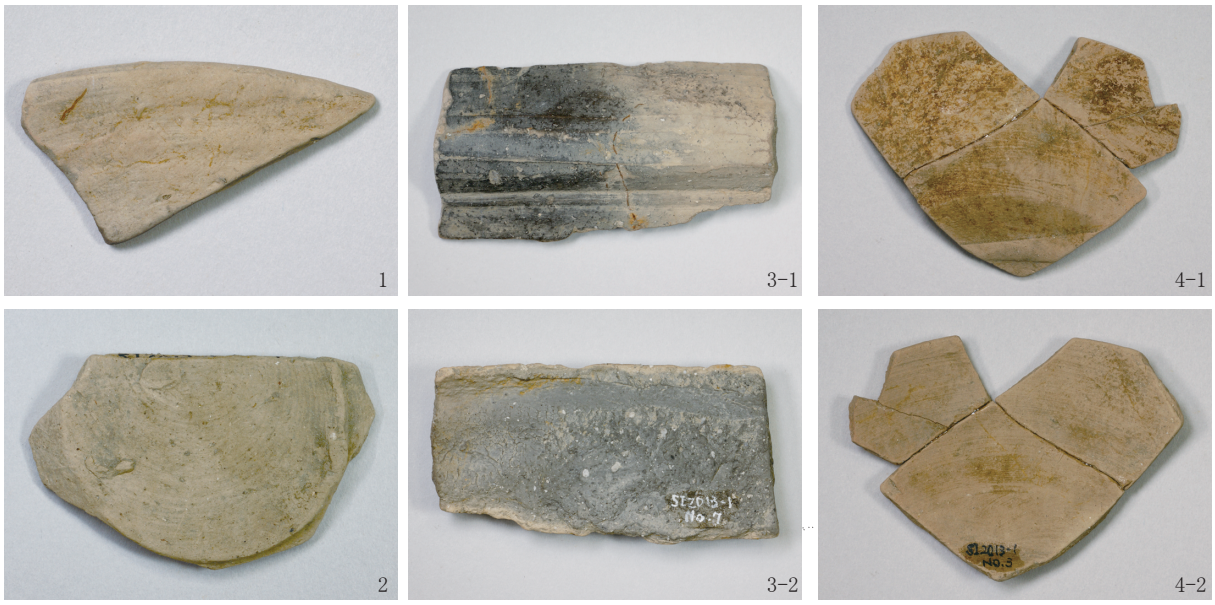
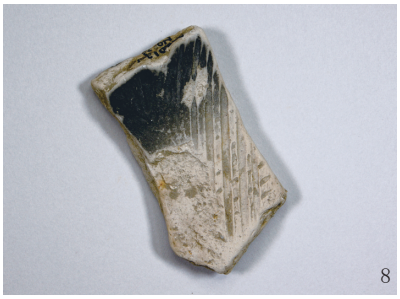


写真 130　出土遺物（土器）①

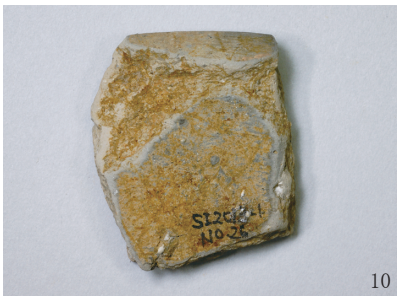
5-1

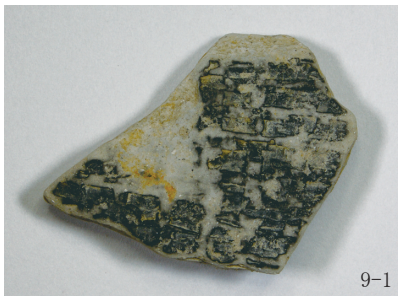
6

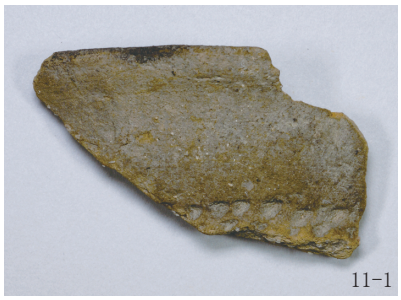

8

5-2

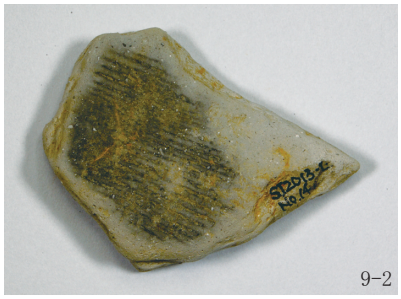
7


10


9-1

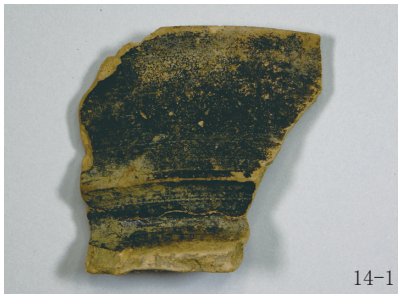

11-1

12


9-2

11-2

13


14-1

15

17-1

14-2

16

17-2

写真 131　出土遺物（土器)②

表7 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	B調査区 第5－3・6－1層	土師器　皿	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	精良	
2	B調査区 第5－3・6－1層	土師器　皿	底部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	精良	
3	B調査区 第5－3・6－1層	瓦質土器　甕か	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.1～3㎜の砂粒を含む	
4	B調査区 第5－3層	土師器　皿	口縁部 ～底部	①(11.6)②(6.4)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	精良	
5	B調査区 第5－3層	須恵器　甕	胴部		①②灰色(N6/0)	0.1～1㎜の砂粒を含む	
6	B調査区 第5－3層	須恵器　蓋	口縁部 ～底部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	精良	
7	B調査区 第5－3層	瓦質土器　擂鉢	口縁部		①②暗灰色(N5/0)	0.1～3㎜の砂粒を含む	
8	B調査区 第5－3層	瓦質土器　擂鉢	胴部		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1～1㎜の砂粒を含む	
9	B調査区 第5－3層	瓦質土器　甕	胴部		①灰色(N4/6) ②灰色(10Y5/1)	0.1～1㎜の砂粒を含む	
10	C調査区 第5－2・5－3層	瓦質土器　擂鉢	口縁部		①オリーブ黒色(5Y3/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.1～2㎜の砂粒を含む	
11	C調査区 下段清掃時	弥生土器　甕	口縁部		①②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1～2㎜の砂粒を含む	
12	C調査区 下段清掃時	須恵器　坏身	底部		①灰色(5Y5/1) ②灰白色(5Y7/1)	0.1～1㎜の砂粒を含む	
13	C調査区 下段清掃時	瓦質土器　擂鉢	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1～3㎜の砂粒を含む	
14	C調査区 上段清掃時	弥生土器もしくは土師器　甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10Y7/3) ②にぶい黄褐色(10Y6/3)	0.1～1㎜の砂粒を含む	山陰系15と同一個体
15	C調査区 上段清掃時	弥生土器もしくは土師器　甕	胴部		①にぶい黄褐色(10Y7/3) ②にぶい黄褐色(10Y6/3)	0.1～1㎜の砂粒を含む	山陰系14と同一個体
16	C調査区 上段清掃時	土師器　皿	口縁部 ～底部		①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.1～0.5㎜の砂粒を僅かに含む	

表8 出土遺物(木器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm)	備考
17	C調査区 第6－2層	椀	底部　厚0.5 推定底径5.9	内外面漆塗り 漆の色調　黒色(10YR2/1)

今回の調査について、平成25年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会で審議した結果、工事掘削深度内で顕著な遺構・遺物は認められなかったものの、谷の深度を確認できなかったこと及び弥生～古墳時代の遺構面を検出できなかった点が課題として指摘された。今回調査区付近は造成土が厚く、谷埋土からの湧水が顕著であることから、今後の発掘調査にあたっては、矢板による壁面の保護が必要である。

【註】

1)田畑直彦(2011)「教育学部附属山口中学校校舎等改修その他工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報5－平成19年度－』,山口

2)河村吉行・杉原和惠(1987)「亀山構内教育学部山口附属学校汚水排水管布設に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』),山口

3)横山成己(2016)「教育学部附属山口中学校新営植物移植工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報10－平成24年度－』,山口

2．教育学部附属山口中学校武道場新営工事に伴う外溝及び渡り廊下取設工事に伴う立会調査

調査地区　白石構内

調査面積　77.6㎡

調査期間　平成26年2月17～20日、3月6・10・11日

調査担当　田畑直彦・川島尚宗

調査結果

（1）調査の経緯（図51）

教育学部附属山口中学校武道場新営工事に伴い、外構工事（防球ネット、フットサルコート、汚水管・集水枡）、渡り廊下取設工事が計画され、立会調査を実施することになった。報告にあたっては、防球ネット新設箇所を1～7地点、フットサルコート新設箇所を8～10地点、渡り廊下新設及び汚水管・集水枡の新設箇所を11～25地点として報告する。1～10地点は田畑による調査記録、11～25地点は川島による調査記録により報告する。本報告は田畑が（1）・（2）・（4）、川島が（3）を分担執筆した。

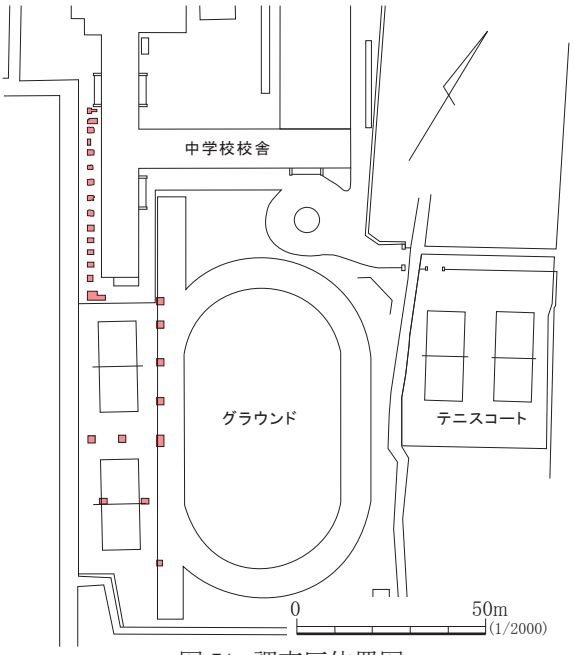


図 51　調査区位置図

写真 132　1～5地点全景（南東から）

写真 133　5～7地点全景（南から）

（2）層序と遺構（図52～53、写真132～157）

a.1～7地点

1～7地点は防球ネットのポール設置箇所である。ボーリングで現地表下約4～7.2mまで掘削を行った。工事の性格上、層序の確認は困難であった。

1地点は現地表下70㎝附近の掘削土にオリーブ灰色（10Y6/2）シルト、現地表下170～400㎝附近の掘削土に明青灰色（5B7/1）シルトが含まれていることを確認した。

2地点は現地表下170㎝附近の掘削土に明青灰色（5BG7/1）シルト、現地表下4.3m附近の掘削土に明青灰色（10BG7/1）シルトが含まれていることを確認した。

3地点は湧水・崩落が激しく層序を確認できなかった。

4地点は、現地表下120㎝附近の掘削土に黄灰色（2.5Y4/1）粗砂、現地表下4m附近の掘削土に灰オリーブ色（5Y5/3）シルトが含まれていることを確認した。

5地点は、現地表下370㎝附近の掘削土に黄灰色（2.5Y5/3）粘土が含まれていることを確認した。

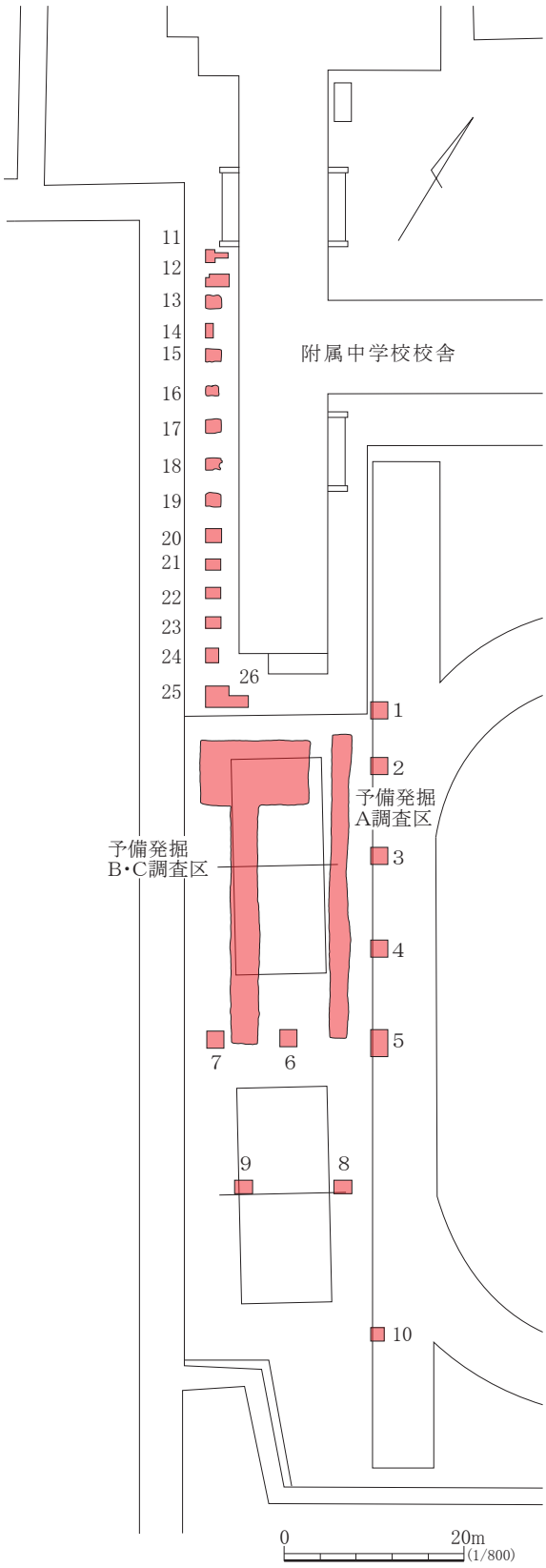


図 52　調査区詳細図

6地点は湧水が激しかったが、現地表下130㎝附近は黄褐色(2.5Y5/3)粗砂及び同色のシルトであることが確認できた。

7地点は昭和61年度の汚水管布設に伴う試掘調査第4トレンチ[註1]と重複する。湧水が激しかったが、現地表下70㎝附近までは確実に造成土であることは確認できた。また、現地表下4.2m附近の掘削土には弥生時代遺構の遺構面形成層と近似する明黄褐色(2.5Y6/6)シルトが含まれていた。

b.8～10地点

8～10地点はフットサルコート整備に伴う集水枡設置箇所である。

8地点では現地表下約90㎝、9地点では現地表下約80㎝まで掘削したが、造成土の範囲内であった。10地点では、現地表下96㎝まで掘削し、底面で旧耕土と考えられる褐灰色(10YR5/1)シルトを検出した。

c.11～25地点

11～25地点は、渡り廊下設置箇所及び汚水管・集水枡設置箇所で、舗装を撤去した状態で調査を行った。攪乱が顕著であったため、層厚のばらつきが大きい。以下では最も良好に残存していた箇所の層位について記載する。

11地点の層序は現地表下28㎝までが①造成土、以下は層厚34㎝の②黒色(10YR2/1)土(粘性あり　遺物包含層)、③層厚7㎝の黒褐色(2.5Y3/2)シルト(遺物包含層)、④層厚23㎝以上の灰オリーブ色(7.5Y5/2)砂(弥生時代以降の遺構面形成層)であり、①造成土には黒色粘質土のブロックと弥生土器・土師器片が多数含まれていた。また、②・③層からも弥生土器・土師器片が出土した。

12地点の層序は現地表下58㎝までが①造成土、以下は層厚25㎝以上の灰オリーブ色(7.5Y4/2)土(粘性なし　弥生時代以降の遺構面形成層)を検出した。①層から弥生土器・土師器片が出土した。

13地点の層序は現地表下36㎝までが①造成土・攪乱、以下は層厚27㎝の②黒褐色(2.5Y3/1)土(粘性あり　遺物包含層)、層厚6㎝の③黒褐色(10YR3/1)土(粘性あり　遺物包含層)、層厚20㎝以上の④オリーブ灰色(10Y5/2)砂礫(弥生時代以降の遺構面形

成層)である。①～③層から弥生土器・土師器片が出土した。④層上面では幅47㎝以上、長さ115㎝以上で西－東に流路方向を持つ溝を検出した。溝の深さは最深部で15㎝で、埋土には植物遺体が含まれていた。

14地点の層序は現地表下95㎝までが①造成土、以下は層厚4㎝以上の②緑灰色(5G5/1)砂礫(弥生時代以降の遺構面形成層)であった。

15地点の層序は現地表下29㎝までが①造成土、以下は層厚13㎝の②オリーブ褐色(2.5Y4/4)土粘性弱い　旧床土)、層厚21㎝の③黒褐色(2.5Y3/1)土(粘性あり　遺物包含層)、層厚4㎝の④黒褐色(2.5Y3/1)砂礫(河川堆積土)、層厚20㎝の⑤暗灰黄色(2.5Y5/2)砂礫(弥生時代以降の遺構面形成層)、層厚12㎝以上の⑥オリーブ灰色(10Y5/2)砂礫(弥生時代以降の遺構面形成層)であった。②・③層から弥生土器・土師器片が出土した。

16地点の層序は現地表下35㎝までが①造成土、以下は層厚14㎝の②オリーブ褐色(2.5Y4/6)土(粘性弱い　旧床土)、層厚23㎝の③黒色(2.5Y2/1)土(粘性あり　遺物包含層)、層厚4㎝の④灰オリーブ色(7.5Y5/2)砂礫(河川堆積土)、層厚5.5㎝の⑤オリーブ灰色(10Y6/2)砂礫(河川堆積土)、層厚8㎝の⑥黄褐色(10YR5/6)砂礫(河川堆積土)、層厚8㎝以上の⑦黒褐色(2.5Y3/2)砂礫(河川堆積土)であった。ただし、西端部に⑥・⑦層はなく層厚20㎝以上の⑤層であった。③層から弥生土器・土師器片が出土した。

17地点の層序は現地表下30㎝までが①造成土、以下は層厚6㎝の②オリーブ褐色(2.5Y4/4)土(粘性弱い　旧耕土)、層厚20㎝の③オリーブ褐色(2.5Y4/4)土(粘性弱い　旧床土)、層厚12㎝の④黒褐色(2.5Y3/2)土(粘性あり　遺物包含層)、層厚11㎝の⑤暗灰黄色(2.5Y4/2)砂礫(河川堆積土)、層厚8㎝の⑥黒褐色(2.5Y3/2)土(粘性弱い　河川堆積土)、層厚5㎝の⑦黒色(2.5Y2/1)土(粘性あり河川堆積土)、層厚15㎝の⑧黒褐色(2.5Y3/2)砂礫(河川堆積土)、層厚17㎝以上の⑨黒褐色(2.5Y3/1)砂礫(河川堆積土)であった。上記のうち、⑤・⑧層は部分的な堆積である。④層から弥生土器・土師器片が出土した。

18地点の層序は現地表下63㎝までがコンクリート・バラス・①攪乱、以下は層厚23㎝の②黒褐色(2.5Y3/1)土(粘性あり　遺物包含層)、層厚9㎝の③暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂礫(河川堆積土)、層厚8㎝以上の④黒褐色(2.5Y3/2)土(粘性あり　河川堆積土)であった。②～④層から弥生土器・土師器片が出土した。

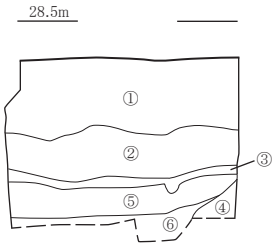
19地点の層序は現地表下36㎝までが①造成土、以下は層厚23㎝の②灰オリーブ色(5Y4/2)土(旧耕土)、層厚21㎝の③暗灰黄色(2.5Y4/2)土(旧床土)、層厚6㎝の④オリーブ黒色(5Y3/2)砂礫(河川堆積土)、層厚7㎝の⑤黒褐色(2.5Y3/2)土(粘性あり、炭を含む　河川堆積土)、層厚1㎝以上の⑥灰オリーブ色(7.5Y3/1)土(粘性なし　弥生時代以降遺構面形成層)であった。③・④層から弥生土器・土師器片、⑤層から縄文土器片が出土した。

20地点の層序は現地表下59㎝までが①造成土、以下は層厚23㎝の②暗灰黄色(2.5Y4/2)土(粘性あり　旧床土)、層厚3㎝の③オリーブ灰色(10Y6/2)シルトであった。

21地点の層序は現地表下76㎝までが①造成土、以下は層厚19㎝の②灰オリーブ色(5Y4/2)土(粘性あり　旧床土)、層厚8㎝の③灰オリーブ色(7.5Y4/2)土(しまりなし　弥生時代遺構の遺構面形成層)であった。

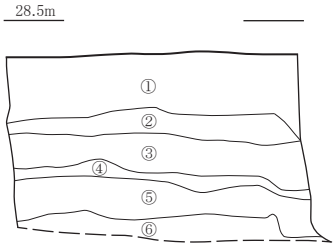
22地点の南東壁の一部における層序は、現地表下74㎝までが①造成土、以下で層厚23㎝の②暗灰黄色(2.5Y4/2)土(粘性あり　旧床土)、97～99㎝で③暗灰黄色(2.5Y4/2)土(粘性あり・1～5㎝大の礫

13 地点北西壁



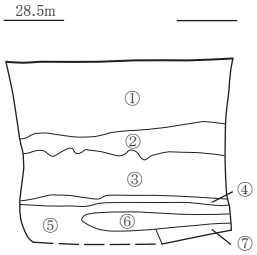
① 造成土
② 遺物包含層 黒褐色 (2.5Y3/1) 土 粘性あり 0.3 ～ 1.2 ㎝大の礫を少量含む
③ 遺物包含層 黒褐色 (10YR3/1) 土 粘性あり 1 ～ 5 ㎝大の礫を含む
④ 弥生時代以降遺構面形成層 オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂礫 1 ～ 3 ㎝大の礫を多く含む
⑤ 溝埋土 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 砂礫 1 ～ 3 ㎝大の礫を多く含む
⑥ 溝埋土 黒 (10YR7/1) 色土 粘性弱い 植物遺体含む

15 地点北西壁



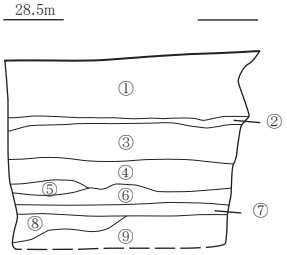
① 造成土・攪乱
② 床土 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 土 粘性弱い
③ 遺物包含層 黒褐色 (2.5Y3/1) 土 粘性あり 0.2 ～ 0.5 ㎝大の礫を少量含む
④ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂礫 0.5 ～ 1 ㎝大の礫を多く含む
⑤ 河川堆積土２ 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂礫 1 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む
⑥ 河川堆積土２ オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂礫 1 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む

16 地点北西壁



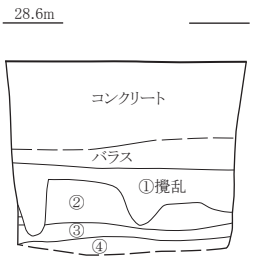
① 造成土
② 床土 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 土 粘性弱い 0.3 ～ 3 ㎝大の礫を含む
③ 遺物包含層 黒色 (2.5Y2/1) 土 粘性あり
④ 河川堆積土 黒褐色 (10YR2/1) 砂礫 0.7 ～ 2 ㎝大の礫を多く含む
⑤ 河川堆積土 オリーブ灰色 (10Y6/2) 砂礫 0.1 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む
⑥ 河川堆積土 黄褐色 (10YR5/6) 砂礫 0.1 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む
⑦ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂礫 0.1 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む

17 地点北西壁



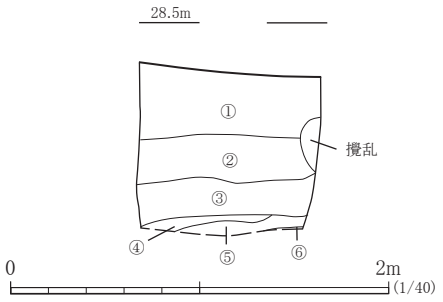
① 造成土
② 耕土 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 土 粘性弱い
③ 床土 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 土 粘性弱い
④ 遺物包含層 黒褐色 (2.5Y3/2) 土 粘性あり 1.5 ～ 3 ㎝大の礫をわずかに含む
⑤ 河川堆積土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂礫 3 ～ 10 ㎝大の礫を多く含む
⑥ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/2) 土 粘性弱い
⑦ 河川堆積土 黒色 (2.5Y2/1) 土 粘性あり 5 ～ 10 ㎝大の礫をわずかに含む
⑧ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂礫 0.7 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む
⑨ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂礫 0.5 ～ 5 ㎝大の礫を多く含む

18 地点南西壁



② 遺物包含層 黒褐色 (2.5Y3/1) 土 粘性あり 炭化物をわずかに含む
③ 河川堆積土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂礫 0.5 ～ 3 ㎝大の礫を多く含む
④ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/2) 土 粘性あり 0.5 ～ 1.5 ㎝大の礫を含む

19 地点東南東壁



① 造成土
② 耕土 灰オリーブ色 (5Y4/2) 土
③ 床土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 土
④ 河川堆積土 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂礫 0.5 ～ 3.5 ㎝大の礫を少量含む
⑤ 河川堆積土 黒褐色 (2.5Y3/2) 土 粘性あり 炭を含む
⑥ 弥生時代以降遺構面形成層 灰オリーブ色 (7.5Y3/1) 土 粘性なし シルト層

図 53 調査区土層断面図

写真134　1地点南西壁土層断面(北東から)

写真135　4地点南西壁土層断面(北東から)

写真136　5地点南東甕土層断面(北西から)

写真137　6地点南東壁土層断面(北西から)

写真138　7地点南東壁土層断面(北西から)

写真139　8地点北西壁土層断面(南から)

写真140　9地点北西壁土層断面(南東から)

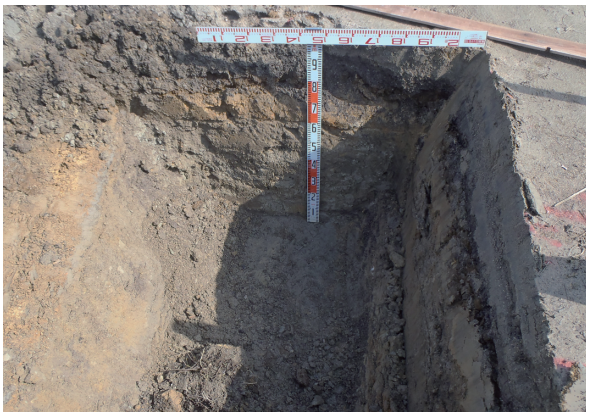


写真141　10地点北東壁土層断面(南西から)

写真142　11～22地点全景(北西から)

写真143　11地点南東壁土層断面(北西から)

写真144　12地点南東壁土層断面(北西から)

写真145　13地点溝状遺構検出状況(西から)

写真146　14地点北東壁土層断面(西から)

写真147　15地点北西壁土層断面(西から)

写真148　16地点北西壁土層断面(西から)

写真149　17地点北西壁土層断面(西から)

写真150　18地点南西壁土層断面(東から)

写真151　19地点南東壁土層断面(北西から)

写真152　20地点南東壁土層断面(北西から)

写真153　21地点南西壁土層断面(北東から)

写真154　22地点南東壁土層断面(北から)

写真155　23地点全景(北東から)

写真156　24地点北東壁土層断面(南西から)

写真157　25地点南東壁土層断面(北西から)

を含む弥生時代以降の遺構面形成層)であった。②層から弥生土器・土師器片が出土した。

23地点は攪乱が著しく、南西壁の一部において現地表下80㎝で第3層を確認するにとどまった。

24地点は現地表下80㎝まですべて造成土の範囲内であった。25地点は渡り廊下の基礎及び汚水管・集水枡新設箇所である。現地表下約125㎝まで掘削を行ったが、すべて造成土の範囲内であった。

【註】

1)河村吉行・杉原和惠(1987)「亀山構内教育学部山口附属学校汚水排水管布設に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』,山口

(3)出土遺物(図54～55・写真158～162)

以下、各地点別に出土した遺物を報告する。38を除き、これらはすべて、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての土器である。

11地点①～③層

1は甕の口縁部から胴部。胴部外面および口縁部内面にハケを施す。胴部内面にはケズリを施す。2は甕の口縁部から胴部。内外面にハケを施す。3は甕の口縁部から頸部。口唇部に浅い沈線を巡らす。4は甕の頸部から胴部。内外面にハケを施す。5は甕の頸部から胴部。内外ともにハケの後にナデを施す。6は甕の口縁部。外面口唇部にはナデ、胴部にミガキ状の調整を施す。7～9は複合口縁壺の口縁部。どちらも資料下端で剥離している。7は鋸歯文を施す。8は外面に単沈線による波状文、竹管状工具により連続する円形刺突を施す。9は口唇部上面に斜位のキザミを施す。外面の調整はハケである。10は壺の頸部で、胎土・色調より8・9と同一個体の可能性が高い。くびれ部の隆帯に二枚貝腹縁により斜格子文を施す。外面にハケを施す。11は壺の胴部。内面にハケを施し、外面はミガキ状となる。12は高坏の坏部。内外面にミガキを施す。

12地点①層

13は山陰系の甕口縁部。14は壺の口縁部。内外面にミガキを施す。

13地点①層

15は甕の口縁部。

15地点③層

16は甕の頸部。17は壺の頸部。くびれ部隆帯に二枚貝腹縁による斜格子文を、胴部外面にハケを施す。18・19は山陰系の甕口縁部で、18は口縁部から頸部まで残存する。20は高坏の口縁部。

16地点③層

21は甕の頸部から胴部。外面にハケを施す。22は甕の胴部。23は壺の胴部。外面にハケを施した後、粗くミガキを施す。

17地点④層

24は複合口縁壺の口縁部。外面は大きく剥落している。口唇部上面に斜位のキザミ、破片下端付近に斜格子文を施す。内面にミガキを施す。25は高坏の口縁部。

18地点②層

26～28は甕の口縁部。26は外面にハケを施す。27は内外とも、頸部にナデ、胴部にハケを施す。28は内外ともナデを施す。29は甕の胴部。外面にハケを施し、くびれ部下に6～9条の水平沈線を巡らす。30は甕の胴部。外面および内面上半にハケを施し、内面下半にケズリを施す。胴部上半に輪積痕を残す。31は甕の頸部。内外ともくびれ部より下にハケを施す。32は甕の胴部。内外ともナデを施す。33は甕の

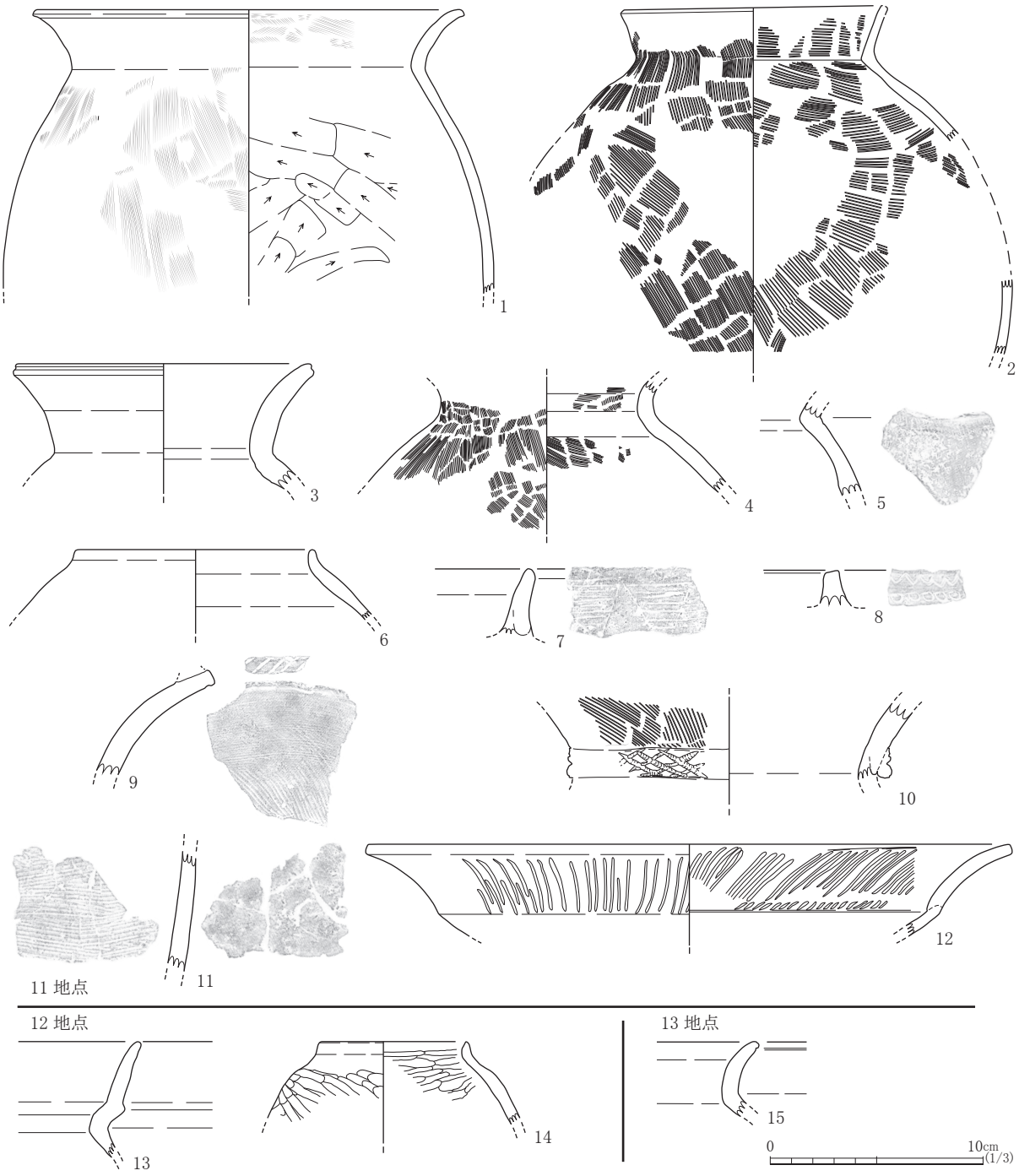


図 54　11 ～ 13 地点出土遺物実測図（土器）

底部。外面にハケを施した後、ナデを施す。34は高坏の口縁部。外面にハケを施す。35は高坏脚部で、坏部との接合部で剥離する。外面にミガキを施す。36・37は山陰系の甕口縁部。

19地点⑤層

38は縄文土器の深鉢。外面に二枚貝条痕、内面にナデを施す。

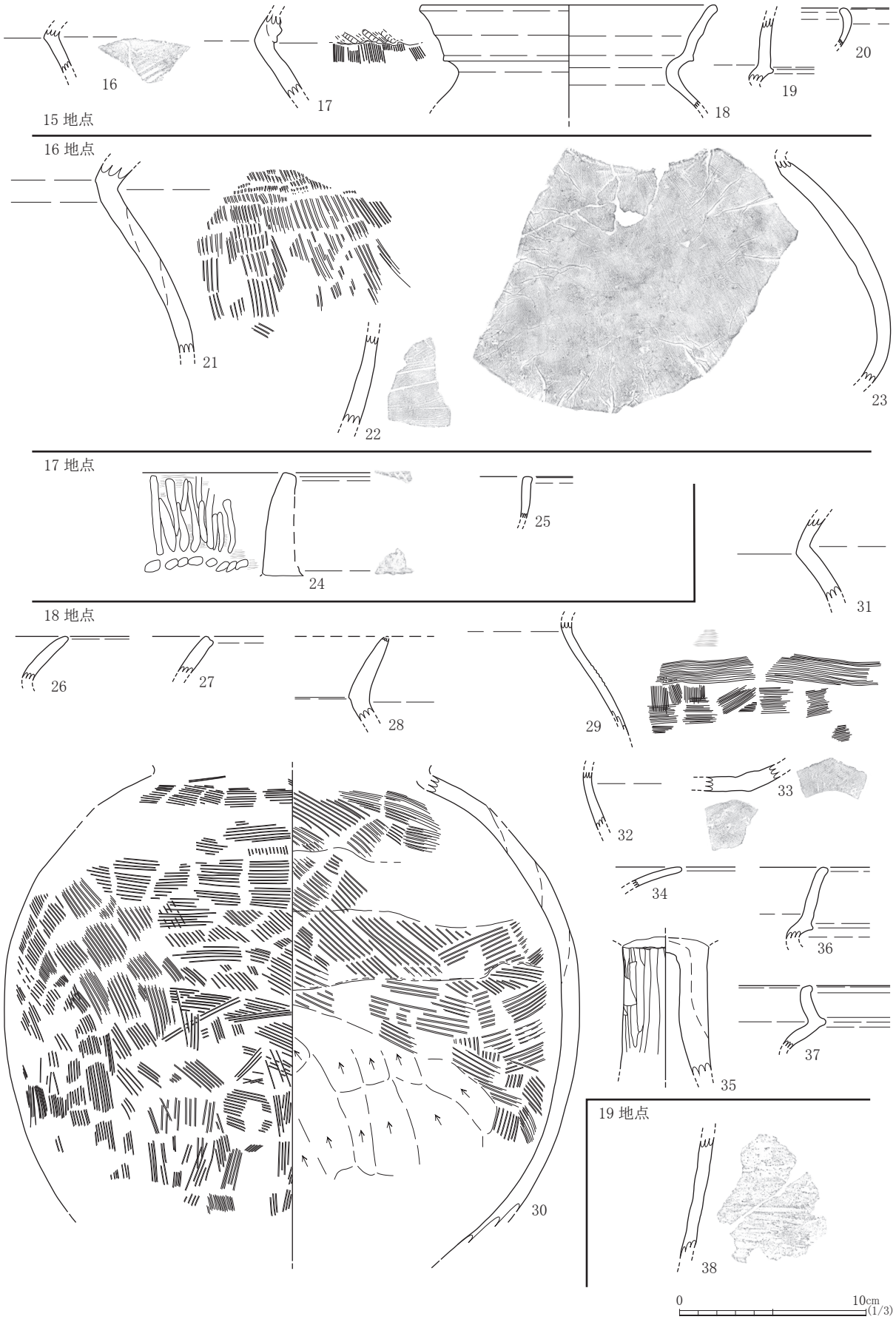


図 55　15 ～ 19 地点出土遺物実測図（土器）

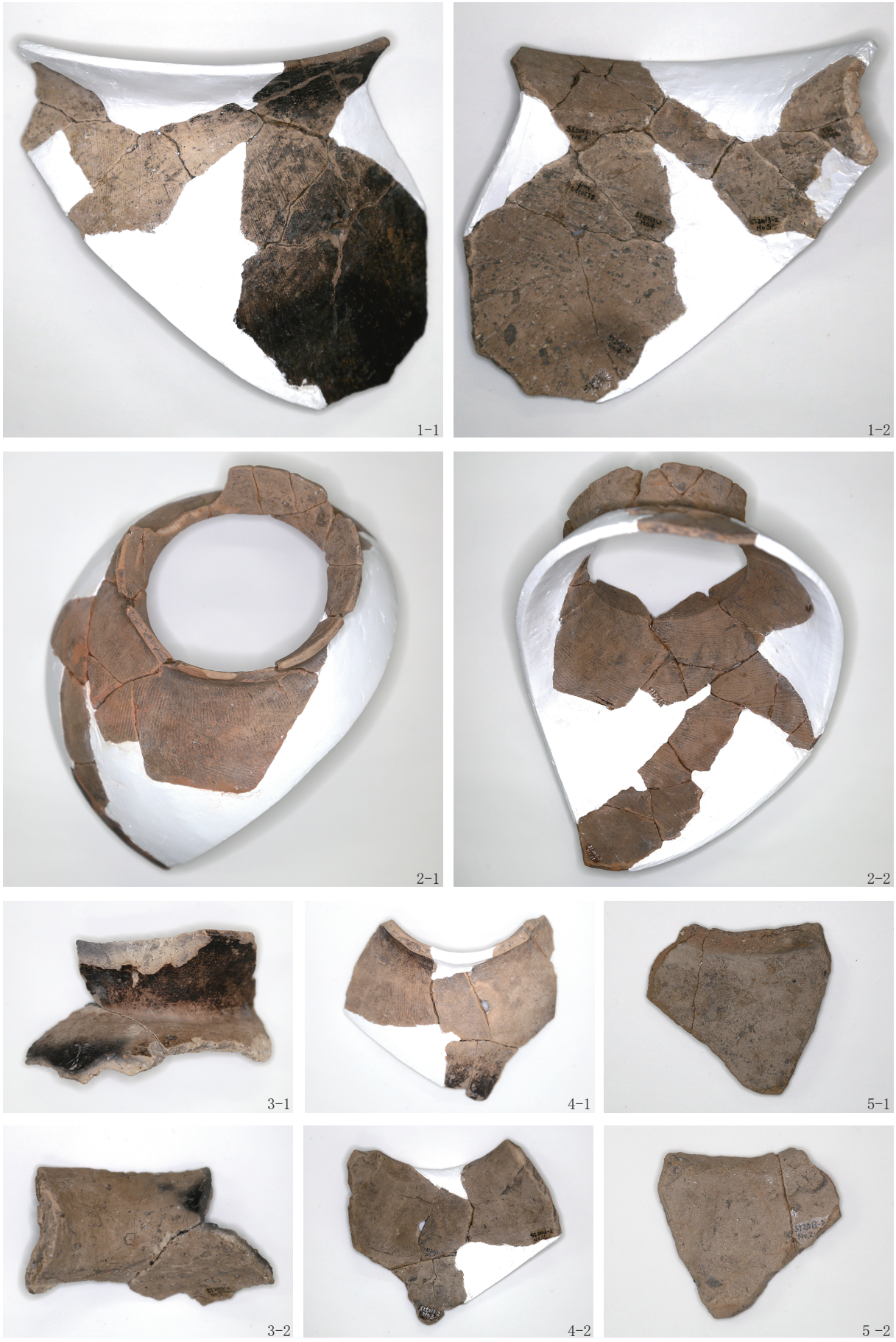


写真 158　出土遺物（土器)①

6-1

6-2

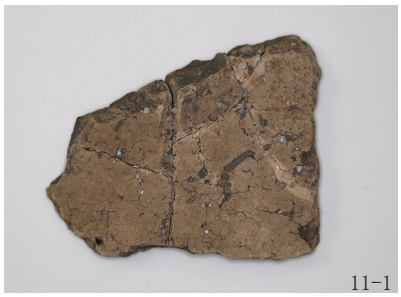
7

8

9-1

9-2

10


11-1

11-2

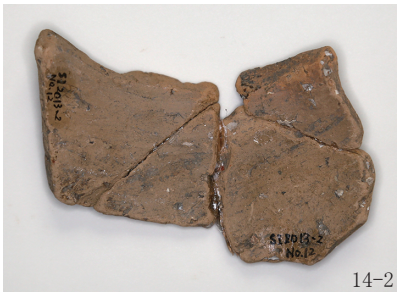
12-1

13-1

14-1

12-2

13-2


14-2

15-1

15-2

16

写真 159　出土遺物（土器)②

17-1

18-1

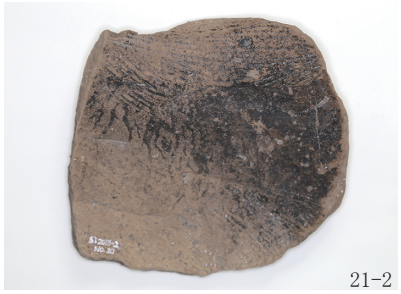
19

17-2

18-2

20

21-1


21-2

22

23-1

23-2

24-1

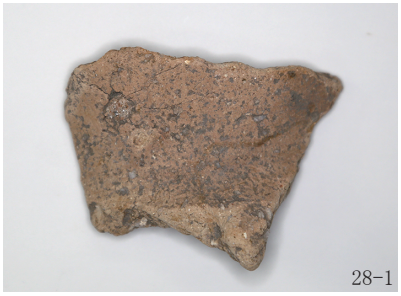
24-2

25

写真 160　出土遺物（土器)③

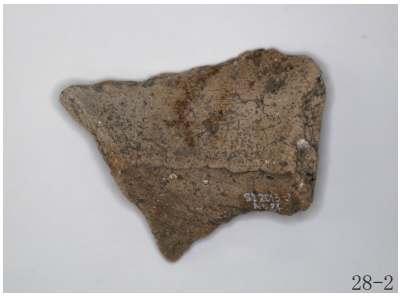
26-1

27-1


28-1

26-2

27-2


28-2

29-1

29-2

30-1

30-2

写真 161　出土遺物（土器)④

31-1

31-2

32

33-1

33-2

34

35-1

35-2

36-1

37-1

38-1

36-2

37-2

38-2

写真 162　出土遺物（土器)⑤

表9　出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	11地点 ②・③層	弥生土器/土師器 甕	口縁部～胴部	①(20.2)	①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.5～4mmの長石・石英を多く含む	スス付着
2	11地点 ①層 ②・③層	弥生土器/土師器 甕	口縁部～胴部	①(12.6)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	0.5～2mmの長石を少量含む	スス付着
3	11地点 ①層	弥生土器/土師器 甕	口縁部～胴部	①(14.1)	①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	1～4mmの長石を多く含む	スス付着
4	11地点 ①層・ ②・③層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmの長石を少量含む	スス付着
5	11地点 ①層	弥生土器/土師器 甕	頸部		①②灰黄色(2.5Y6/2)	0.3～1.5mmの長石を少量含む　1.5mmの黒褐色砂粒を少量含む	
6	11地点 ①層	弥生土器/土師器壺	口縁部	①(11.4)	①②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～1.5mmの長石・石英を少量含む	
7	11地点 ①層	弥生土器/土師器 壺	口縁部		①明赤褐色(5YR5/8) ②橙色(7.5YR6/6)	0.3～1mmの長石を多く含む　2mmの赤褐色砂粒をわずかに含む	
8	11地点 ①層	弥生土器/土師器 壺	口縁部		①②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.3～0.5mmの長石をわずかに含む	
9	11地点 ①層	弥生土器/土師器 壺	口縁部		①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.3～1mmの長石を少量含む 1mmの石英をわずかに含む	
10	11地点 ①層	弥生土器/土師器 壺	頸部		①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.3～3mmの長石を少量含む　3mmの石英をわずかに含む　1mmの赤褐色砂粒をわずかに含む	
11	11地点 ①層	弥生土器/土師器 壺	胴部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)	2～3mmの長石・石英を多く含む	
12	11地点 ②・③層	弥生土器/土師器 高坏	坏部	②(30.4)	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	1～3mmの長石・石英をやや多く含む	
13	12地点 ①層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①黒褐色(10YR3/1) ②浅黄色(10YR7/4)	0.5～3.5mmの長石・石英を多く含む	山陰系 スス付着
14	12地点 ①層	弥生土器/土師器 壺	口縁部	①(7.8)	①明黄褐色(10YR7/6) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5～3.5mmの長石・石英をやや多く含む　3mmの赤褐色砂粒をわずかに含む	
15	13地点 ①層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5～3mmの長石・石英をやや多く含む	スス付着
16	15地点 ③層	弥生土器/土師器 壺	頸部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.3～2mmの長石・石英をやや多く含む	
17	15地点 ③層	弥生土器/土師器 壺	頸部		①明黄褐色(2.5Y7/6) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	1～3mmの長石・石英をやや多く含む	
18	15地点 ③層	弥生土器/土師器 甕	口縁部～胴部	①(16.0)	①黄褐色(2.5Y5/3) ②浅黄色(2.5Y7/4)	1mmの長石・石英・赤褐色砂粒を多量に含む	山陰系 スス付着
19	15地点 ③層	弥生土器/土師器 甕	頸部		①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	0.5～3mmの長石・石英を少量含む	山陰系 スス付着
20	15地点 ③層	弥生土器/土師器 高坏	口縁部		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y6/3)	0.5mmの長石をわずかに含む	
21	16地点 ③層	弥生土器/土師器 甕	頸部～胴部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②黄褐色(2.5Y5/3)	0.5～1.5mmの長石・石英をやや多く含む	
22	16地点 ③層	弥生土器/土師器 甕	胴部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～1.5mmの長石をわずかに含む	
23	16地点 ③層	弥生土器/土師器 壺	胴部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～3mmの長石・石英をやや多く含む　2～4mmの赤褐色砂粒をわずかに含む	
24	17地点 ④層	弥生土器/土師器 壺	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.3～1.5mmのの長石をやや多く含む	
25	17地点 ④層	弥生土器/土師器 高坏	坏部		①②にぶい黄橙色(10YR7/4)	1.5～2mmの長石・石英をわずかに含む	
26	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①灰黄色(2.5Y6/2) ②オリーブ黒色(5Y3/2)	0.5～1mmの長石・石英を少量含む	
27	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	1～1.5mmの長石・石英を少量含む	
28	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	口縁部～頸部		①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y7/4)	2～4mmの長石・石英を多く含む　9mmの礫をわずかに含む	

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
29	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	胴部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmの長石・石英を多く含む　1mmの赤褐色砂粒を少量含む	スス付着
30	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	胴部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰オリーブ色(5Y6/2)～灰色(5Y4/1)	0.5～3mmの長石・石英をやや多く含む	
31	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	頸部		①にぶい黄橙色(10YR6/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～2mmの長石・石英をやや多く含む	
32	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	胴部		①橙色(5YR6/6) ②橙色(7.5YR7/6)	2～3mmの長石を多く含む 1.5mmの赤褐色砂粒を少量含む	
33	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	底部		①浅黄色(2.5Y8/3) ②黒色(2.5Y2/1)	0.5～3.5mmの長石・石英をやや多く含む	
34	18地点 ②層	弥生土器/土師器 高坏	坏部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.3～1mmの長石を少量含む	
35	18地点 ②層	弥生土器/土師器 高坏	脚部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～3mmの長石・石英を多く含む　1mmの赤褐色砂粒をわずかに含む	
36	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①灰黄色(2.5Y6/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)～にぶい橙色(5YR6/4)	0.3～1mmの長石を少量含む	山陰系 スス付着
37	18地点 ②層	弥生土器/土師器 甕	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmの長石・石英を多く含む　1mmの赤褐色砂粒を少量含む	山陰系
38	19地点 ⑤層	縄文土器　深鉢	胴部		①②にぶい黄褐色(10YR5/3)	1～4mmの長石を多く含む	

(4)小結

今回の調査の結果、予備発掘調査区周辺の1～7地点では明確な層序を確認できなかった。8～10地点における掘削深度は造成土内とどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。一方、11～19地点では遺物包含層ないし河川埋土が確認され、弥生時代終末期から古墳時代初頭の土器が出土した。また、19地点の⑤層(河川埋土)から縄文時代晩期と考えられる深鉢胴部片1点が出土した。

11～19地点に隣接する平成2年度に実施した汚水排水管布設に伴う発掘調査区A区・B区[註1]では、弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物包含層と縄文時代晩期後半の遺物包含層が確認され、特に同A区では第5・6層から弥生時代終末～古墳時代初頭の土器が多数出土している。今回の調査で土器が多く出土した11～15地点の遺物包含層は同A区第5・6層と一連の遺物包含層と考えられる。一方、縄文時代晩期の土器が出土した19地点⑤層については調査面積が狭小で1点のみの出土であることから、時期の断定は困難である。平成2年度及び今回の調査で出土した弥生時代終末～古墳時代初頭の土器は、摩滅が少なく残存状況が良好である。加えて土器は北西側の調査区で多く出土していることから、今回調査区の北西に位置するプール敷地周辺からの流れ込みと推測される。プール敷地周辺においては、平成2年度に実施した汚水排水管布設に伴う立会調査[註2]で弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物包含層が確認されているが詳細は不明な点が多い。プール敷地周辺及び今回調査区周辺では、現地表下約30cmに遺物包含層が分布する箇所もあることから、小規模な掘削工事においても、埋蔵文化財の保護に対する十分な注意が必要である。

【註】

1)古賀真木子(1992)「亀山構内教育学部附属山口中学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』,山口

2)古賀真木子・河村吉行(1992)「亀山構内教育学部附属山口中学校汚水排水管布設に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』,山口